

政友内閣末期に甦つた村山さん

一 記 者

村山さんと言つても一寸人には判り悪いであらうが、昭

和一年京都府土木部長から官界を去つて土木請負業飛鳥組

へ遣入つた村山喜一郎君のことである。其の村山君が再び

元の京都府土木部長に復活すると言ふ噂が立つてゐた。夫

れは政友會内閣が成立して間もないことであつた、いかに

政友會内閣の人事が亂暴であつて政治的偏見を露骨に表は

すにしても、眞逆村山君を復活せしむるやうなことはある

まいと評されてゐた。併し元の政友系知事であつた某々兩

氏が復活運動に奔走してゐるが、某氏も官僚育ちで官吏氣

質は百も承知の筈だから眞剣な運動ではなからう。何れ已

むを得ない他動的の運動位に軽く見られてゐた。然るに誰

言ふとなく村山君の復活が實現すると傳へられ、俄に土木

技術官界は騒ぎだした。

我土木技術官界の實情を覗いてみると全く行き詰りの状

態であつて、元年に大學を出たものもまだ雇員であると言

ふ有様で青年技術官は何とかして此現状を打破し若々しい

意氣を土木技術界に表はし度いと焦慮してゐる。此空氣を

知つてゐる友人は村山君再度の任官を斷念するやうに勸告

したのもあつたやうだ。全國土木技術に従事する高等官

の團體——土木俱樂部も亦緊急幹事會を開いて、村山君復活

の希望を斷念するやうに勸告し、若し此決議を無視して假

令任官するとも俱樂部員は交際を絶つと本人に通告して反

省を求めたのであつたが、夫等の勸告や決議は村山君の耳

には響かなかつたと見え、復活運動は依然繼續されて政友

會内閣が倒壊する一日前に京都府土木部長に復活した。

村山君の復活を運動した人々に言はしむると、村山君を
誣首したのは當時の京都府知事佐上信一が乾分の調所武光
を長崎から京都へ採用する爲だつた。言はゞ村山は調所の
犠牲と爲つたのであるから今夫れを還元するのだと言ひ、
或は之を政黨的に見て民政黨内閣時代に誣首したのでから
其の不公平な人事を矯正するのだとも言つ
てゐる。併し村山君を誣首した動機や緣由
が奈邊にあつたかは門外漢たる筆者には判
らないが、若し前者の理由に依つたものと
すれば佐上知事の人事を責めなければなら
ぬ、蓋し乾分と言ふやうな私的關係に胚胎して公人の人事
を決するが如きは公事の公正を期する所以でないからであ
る。併し佐上知事は無疵の村山を誣首してまで乾分を養成
する程勇敢な男であるかを見究めなければならぬ。從來に
於ける彼れ佐上の行つた人事を見ると餘程の人でなければ
誣首してゐない、世間では随分非難攻撃されてゐる人でも



村山喜一郎さん

一度自分の部下だつた者は容易のことで誣首しない、餘り
世間が八ヶ間敷言ふやうに爲つてから他府縣へ轉任せしむ
る方法を探つて、人から怨を買ふやうな下手なことをやら
ない、民政黨内閣時代に彼れ佐上を監視すべく内務警察兩
部長が配せられ、政友會内閣になると兩部長の逐出し運動
が起る、夫れでも彼れ佐上は兩部長の榮轉を策して配下か
ら誣首者を出さないことに努力した。此恩
情主義のお蔭で今も世に榮えてゐる内務部
長や警察部長が随分多い位に恩情主義者で
あつて之が彼の特長でもあれば亦一面彼の
缺點である。だから村山君が誣首されたの
も彼れ佐上の自發的行爲でないことは裏書きされる譯であ
る。殊に土木部長の進退は本省が直接管理してゐること
に徴しても明かであらう。併し又彼の温情主義が舊部下で
あつた彼れ調所に振り蒔かれたやうに考へらるゝであらう
が、彼は彼の持する温情主義を放棄してまで調所を採用す
る程調所を信用してゐない、唯だ彼調所が政治に奔走した

り悪い事を企むやうな人間でないから安心して部下として使えると見てゐる程度に過ぎない、従つて村山君の誡首を佐上知事の責に歸するのは間違であらう。

人が評するやうに政黨的關係に依つて村山君を誡首したものとすれば、事務と政務とを混同したものであつて斷じて許さるべきでない、今彼れ調所を北海道へ左遷し村山を復活せしむるに政黨的活動に出たものとすれば、村山を誡首したことを責める人が又責めらるゝ人事をやつたことに爲つて是又許すべきでない、既成政黨に對する反動的行爲が表はれフアツシヨ思想が漸次濃厚を加え、假令夫れが實現出來得ないものとしても此思想の下に醜惡な既成政黨の行爲を抑制せむとするに至つたのは、矢張り無理な人事を政黨的に行ふたことが最大の原因を爲してゐる。往々にして役人の一部が其の地位の如何を願はず立身出世を計るが爲に政黨者流に叩頭阿諛するの醜狀は筆者の常に鑿鑿するところである、併し此忌むべき奸手段に依つて榮進する者も尠くない。政黨に超然たるへき事務官に此思潮の漸次瀰漫

しつゝあるのは、國家の爲寔に慨嘆に堪へないことであつて經世家に反省を求めなければならぬ。今回の村山君の復活も亦其の一つに加えて可いだらう。

夫れはそれとして土木俱樂部の連中や友人が彼れ村山の復活に對し何故に反對したのであらうか、彼が相當の年配に爲つて土木主任官としては行くべき所まで行つて退官し土木請負業飛鳥組の番頭をしてゐたのに、或る權勢を利用して復活したからであらう。現在の土木技術官界は前にも言つたやうに全く行き詰つてゐる。這般鐵道技術官界の會合に於て、吾々の領域に屬する技術官は常に新陳代謝して時には若い浪人を出してゐるが、土木技術官界は何年經つても萬代不易の感がある。併し其の代りに鐵道技術の進歩は澹澹たるものがあるが、土木技術は沈滞して何等見るべきものが無い。と評したとやら言はれてゐる。夫れ位に土木技術官界は青年技術官の出世を阻止してゐる。従つて假令在官してゐても此狀勢からして罷めて貰はなければならぬやうな村山君が復活することは餘りに現勢を無視した傍若

無人の遣り方であるからであらう、夫れに土木部長の職務と關係ある土木請負業に従事してゐたことが、綱紀肅正の意味に於て八ヶ間敷言はれるのであらう、固より會社員を勤めた者が官吏と爲り得ない理由はない、で夫程論議するだけの事柄ではないに違いない、又村山君を知る者は彼が舊主人に對する情實的行動を採る男とは思はない又そうでなければならぬ。併し同業土木請負業者間に於ては此關係を筆者と同じやうに觀察するであらうが、之を想ふとき思半ばに過ぐるものがあらう。此點だけに就て考へても村山君の復活は不都合で不得策と言はねばならぬ。

事務官の政黨化は官界を腐敗墮落せしむる原因と爲るのはこゝに筆者が言ふ迄もない、今回生れた齊藤協力内閣は、政務と事務との區別を明確にし政黨の勢力が事務的方面にまで浸潤し事務官の政黨化を激成してゐる現下の弊害を除去する方針を決定し、人事關係に就ては絶対に政務官の容喙を許さないと言はれてゐる。當然のことであるが、殊に技術官は普通事務官と違つて普通人の爲し遂げ得ない

技術を司るのであるから、政黨は勿論のこと或る權勢を以て技術官の採否を決定すべきでない、今回の内閣が其の聲明を實行したならば、夫れだけでも齊藤内閣成立の效果がある筈であるが、此處に筆にした村山京都府土木部長復活の問題を如何に措置するか蓋し見物であつて、夫れが現内閣の聲明の價値を判斷せしむるであらう。

色々な複雑した事情に依つて復活した村山君も、是等の反對を打切つて復活したのであるから恐らく確信する所があるであらうが、由來京都府の土木は爲すべき多くを持ちながら財政的に無爲を餘儀なくされてゐる。之を打開して民生の福祉と爲るべき事業を起したならば君が同僚の非難を受けつゝ復活した意義も少しは顯はれるであらう。併し一度彼に勸告した土木俱樂部の責務も、唯だ勸告したゞけでは公の團體としての面目も立たない譯だから俱樂部此後の行動が彼村山の行動を左右するに至るであらう、夫れが村山君の復活が齎した京都府の利と不利とが評價せらるゝ基準と爲るであらう。